

ウイズダム・マネジメント (wisdom management) とは

ウイズダムとは知恵のことを指します。

図表 1 を参照しながら説明をすると次のようになります。

「ウイズダム・マネジメント」の目的は、その上位目的からいうと、

- ① 「知恵を創りだす」
- ② 「知恵の結果を使えるようにする」の 2 つです。

そのための基本手段としては、

‘⑥「知識をすぐ使えるように整理しておく」ことです。

更に、詳しくいえば、

‘①「知恵の結果をだす」②「知恵の結果を使えるようにする」には、

‘③「何をどうするか知恵をもつ」こと、そのために、④「何をしたいかの意思をもつ」ことが必要になります。

そのためには、筆者が開発した⑤「意思を整理する [目的と手段のダイアグラム \(PMD: Purpose Measure Diagram\)](#) の方法を使う」ことが必要になります。(この方法は、[問題解決と課題実現のための知識から知恵を創りだす方法 \(日本語版\)](#) に詳しく説明されています)

この「意思を整理する方法」については、我々は個人でこれを無意識にやってきていますが、多くの人が集まる組織の「意思を整理する」ためには、大変な時間と多くの議論を必要とするので、場合によっては、まとまらずじまいになってしまうこともあります。

この問題を、見える形で、多く人々の集まる組織体でも、短時間でまとめることのできる方法として筆者が考案したのが、この「PMD の方法」です。

また、この方法を使うためには⑥「知識をすぐ使えるように整理しておく」こと、そのためには’ ⑦「知識とは(1)手順の情報、(2)結果の情報から成り立っていることを認識する」ことと (注) ⑧「知識から知恵を創りだす方法をもつ」ことが必要となります。

そのうえで、②「知恵の結果を使えるようにする」ために⑨「知識の結果を人に説明できるようにする」ことがあれば’ ⑦「知識とは(1)手順の情報、(2)結果の情報から成り立っていることを認識する」ことと⑧「知識から知恵を創りだす方法をもつ」こととつながって、「知識と知恵の循環」が始まります。

まとめて言うと、○A ウイズダム・マネジメントとは「知恵の結果を出しその結果を使えるようにする」ことであり、○B ナレッジ・マネジメントとは「知識をすぐ使えるようにする」ことであるので、図表 1 の左側の説明と、⑨の知恵の結果を人に説明をできるようにして⑦+⑧のところへ戻してやればウイズダム・マネジメントとナレッジ・マネジメントの結合ができたこととなります。

そこで、それを総称して (広義の) 「ウイズダム・マネジメント」と呼ぶことにして筆者の著書の題名を「知識はあっても知恵のでてこない、組織のための [『ウイズダム・マネジメント』 \(問題解決と課題実現のための知識から知恵を創りだす方法\) \(英文版\)](#) としました。 [著者 \(江崎通彦\) の経歴](#)

図表1 知識→知恵→新しい知識の循環

「ウイズダムマネジメント」と「ナレッジマネジメント」の循環

